

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立北波多小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・「学力の向上」では、児童の「問い」を活かした単元づくりに取り組んだ。問いを追究する手段や方法を児童に選択させる機会を作ることで、個別最適な学びや協働的な学びの実現につながった。県学調の結果から、思考力・判断力・表現力の伸びも確認できた。今後は、記憶する「知識・技能」の定着や小中連携での取組の研究の充実を図り、更なる学力の向上を目指したい。</p> <p>・本年度もコロナ禍であったが、感染対策を取りながらできる限り行事や活動を行ってきた。3年ぶりに実施できた活動（運動会での志気浮立など）や新たな取組もあり、「自律」「協働」「創造」の学校教育目標の達成に向け、効果的な教育活動を図ることができた。今後も、地域や保護者との連携をとりながら、本校の宝である「学校ボランティア」等の活用も推進し、実践に努めていきたい。</p> <p>・様々な特性を持った児童がみられ、対応に苦慮する場面もあった。特別支援教育に関する知識と実践力を高め、組織的に支援にあたっていかなければならない。</p>
---------------	--

2 学校教育目標	とことん学び とともに高めあう 元気いっぱい北波多っ子 ～自律・協働・創造を目指した学校づくり～
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>◇確かな学力の育成    ◇豊かな心の育成    ◇健やかな体づくりの育成    ◇安心・安全な学校づくり    ◇特別支援教育の充実    ◇地域との連携強化</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	主な担当者
---------------	--------	-------

(1) 共通評価項目				最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価				
	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○子供の「問い」を活かす授業	○児童の「問い」を活かす授業を推進できた肯定的な回答をした教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有する。 ・国語、算数を中心に、授業の中に書く活動を位置づける。（自分の考えを表す時間やまとめの時間、ふりかえりの時間など工夫して取り入れる） ・主体的対話的な学びの創造に向け、「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し授業研究に取り組む。 ・一人1回、算数の研究授業に取り組む。	B	・児童の「問い」を活かす授業を推進できたと回答をした教師は6割に満たなかったが、全体を通して「問い」を意識した授業づくりを行うことはできていた。 ・共通様式を活用した授業づくりについても、自己評価の平均は約6割であったが、日頃の授業は共通様式に沿った形で行われることが多かった。 ・研究発表会に向け、全員が1回は研究授業を実践できた。	B	・各内容について教師の自己評価が約6割を達成している。今後も頑張っ て続けていただきたい。	学び部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○集団の中で積極的に活動したり協力したりできた児童85%以上 ○進んであいさつをすることができた肯定的な回答をした児童80%以上	・縦割り班での遊びを通して、異学年交流に取り組む。 ・人権教室「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実践する。 ・委員会やボランティアの児童と共に、朝のあいさつ運動を推進する。	A	・集団の中で積極的に活動して協力すること、進んであいさつをすることについて、どちらも約9割の児童が肯定的な回答をした。 ・縦割り活動での異学年交流で、お互いを思いやる心を育てることができた。 ・人権教室や各学年での人権学習により、人権尊重の意識を高めることができた。	A	・重点目標に向けて取組を続けられていてアンケート結果が9割なのでAでよいのではないか。 ・「6年生ありがとう集会」での各学年の交流ができてのを見て、普段から異学年との交流がなされていると感じた。	学び部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「困ったことがあれば、先生や保護者に相談できる」と肯定的な回答をした児童80%以上	・Q-Uアンケートや毎月の「心のアンケート」の結果を週1回の連絡会で情報共有を行うとともに学級経営に生かす。 ・いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回の拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。	B	・困った時に先生や保護者に相談できると答えた児童の割合は約8割、保護者の学校に対するいじめ対応への肯定的な回答は8割を超えている。職員間でも都度情報共有を行い、いじめに発展する可能性の芽を摘む取組を行ってきた。ただ、2割の児童が困り事を抱えている可能性があるため、さらに細やかな目配りが必要である。	B	・「先生に相談できる」と回答できなかった児童は、先生に対して敷居が高いのかもしれない。子どもからのメッセージと受け止め、今後も頑張っ てほしい。 ・保護者とも協力し、引き続きいじめの早期発見に取り組んでほしい。	特活部 生活部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア教育に関わる諸活動について、キャリアパスポートを系統的に位置づけ、自身の姿容や成長を自己評価させる。 ・郷土について学ぶ体験活動をカリキュラムに位置付ける。	A	・先生がよいところを認めてくれていると回答した児童は9割を超えた。 ・主に高学年がキャリア教育や郷土についての学習に取り組む、将来の夢に向けて意欲を高めることができた。	A	・5年生に農家の方が、これからの農業について話をしてくださり、とても興味が湧いた様子だった。これからもどんどんこう いう取組を行ってほしい。	教務部
●健康・体づくり	○人権・同和教育の推進 ○心のアンケートの推進	○「児童生徒を対象にした人権学習」の実施率90%以上 ○「学校では楽しく生活をする ことができますか。」と回答した児童90%以上	・児童生徒支援教員を中心に、人権学習の授業プランを提案、実行する。 ・日常生活において、安心して過ごすことのできる集団づくりと教職員との良好な関係づくりを行う。	A	・児童生徒支援教員を中心に、各学年で人権学習に取り組むことができた。 ・「楽しく生活をする ことができます」と回答した児童・保護者ともに9割を超えた。引き続き安心して過ごすことのできる集団・関係づくりを目指す。	A	・北波多地区はずっと以前から、人権・同和教育の取組を行ってきた。とても大切なことなので、これからもしっかりと継続してほしい。	学び部 生活部
	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・各学期において、食に関する指導を全クラスで行い、児童の食に対する意識を高める。	A	・給食のメニューやクイズを放送で伝えるなど、食への興味を高める意識を高める工夫ができた。「健康に食事が大切である」と考える児童は9割を超えている。	A	・食への興味を高める取組とともに、食事中の事故防止についても指導を徹底して頂きたい。	保体部
○「望ましい生活習慣の育成」	○朝の健康観察を100%にする。	・家庭と連携して、感染症対策をはじめ健康維持の意識向上に取り組む。 ・換気、手洗い、消毒、密の回避など感染対策も引き続き行う。	A	・今年度も朝の健康観察は100%実施できた。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付けることができて いる児童は、9割を超えている。 ・感染症が流行している時にはマスクを着用したり、常に手洗い や換気について声をかけあうなど、高い意識をもって過ごすことができた。	A	・しっかりと取組が行われているので、今後も引き続き取組を徹底してほしい。	保体部	



4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目									
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●業務記録を活用し、毎月時間外在校等の時間が45時間以下になるようタイムマネジメントの意識を高める。 ●校務分掌や教材研究に係るデータの共有を図る。 ●年休取得日数を昨年度より増やし、定時退勤日(毎週金曜日)の遵守を進め、メリハリのある業務推進とワークライフバランスの意識の向上を図る。	B	●時間外在校等時間の上限については、時期の差はあるものの、ほとんどの職員が平均45時間未満を遵守することができた。 ●年休取得については、年間10日以上取得できた職員が7割近くいるが、業務の適正配置について課題を感じている職員もいるため、再度見直す必要がある。	B	●中途退職者が多いと聞かれて、まだまだ働き改革が必要だと感じている。 ●業務の精選が必要である。	管理部	
	○業務精選の推進	○行事の精選や日々の業務の不断の見直しをさらに推進する。	●業務の効率化、働き方改革が進んでいると感じる職員の割合を90%以上	B	●文書のデータ共有やデジタル掲示板の活用を進め、業務の効率化を図ることができたが、まだ時間外在校等時間を縮小する余地がある。他校や他県の取組も参考にしながら、さらに効率化を図る必要がある。	B	●さらに新しい情報ツールやシステムを活用して効率化を図ってほしい。	管理部	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○小中連携の充実と地域連携の強化	○小中連携による学力向上と、地域住民(学校支援ボランティア)・保護者と協働した教育課程の実施	○小中連携・地域連携による取組への肯定的な回答をした保護者・教職員の割合80%以上。	A	●小中連携の取り組みにより授業力が向上したと感じている教職員は9割を超えている。 ●保護者や地域との連携・協力により、保護者の願いに応えることができていると感じている保護者は8割を超えている。 ●学校ボランティアの体験活動も計画通り実施できた。	A	●小中のそれぞれの特性を生かして取り組んでほしい。 ●関係する学校との連携も大切にしてほしい。	学び部		
○特別支援教育の充実	○児童の特性を考慮した環境整備(人的・物的) ○特別支援教育に関する知識の深化	○特別支援教育への理解が深まったと回答する教職員の割合80%以上	A	●週1回の子ども支援会議の実施 ●特別支援に関する研修会の実施 ●ケース会議の開催と情報共有	A	●職員の9割近くが、特別な支援を必要とする児童を把握し、指導力向上に努めたと自認している。今年度新設した子どもサポート会議や週に一度の子ども支援会議により、全職員の意識向上を図ることができた。ただし、適切な支援が不十分なケースも少なからずあるため、引き続き研鑽を積み必要がある。	A	●特別支援教育の理解は今後さらに必要である。専門機関の力も借りて、さらに充実させてほしい。	特別支援部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望									
<p>●どの項目も概ね目標通り達成することができた。</p> <p>●学力向上に向けて取り組んだ研究授業を全職員が公開することができたことは大きな成果であったと考える。しかし、前年度の県学習状況調査の正答率を成果指標として検証を行った結果、十分な成果がみられなかった。それ以外については、研究への取組成果が表れてきたところであるため、次年度も児童の問いを活かした授業づくりの取組は続けて取り組んでいきたい。</p> <p>●小中1校ずつという連携を行うには恵まれた環境にあるため、全職員が9年間の学びの大切さを意識でき、かつ実践に結び付けることができる内容となる連携の見直しを図りたい。</p> <p>●次年度は、校時表の見直し、ペーパーレス化の取組拡大、職員のタイムマネジメント意識向上につながる研修等を行い、業務改善をさらに進めていきたい。</p>									